

## 川辺にある下の街

青龍橋の左手に三階建ての大きな木造建築物があった。石碑があるので由緒ある建物かもしれない。旅館みたいな作りだと思いながら、写真の左側にある路を下っていく。



上の街に比べて狭い。両側に商店が並び、正面には山がある。この山の左手の山に青龍橋から見たタルチョーがはためくチベット寺院がある。そこまでは遠そうなので行かなかったが軒先にタルチョーを吊るしている家があった。

タルチョーには経文が印刷されている。これが風にたなびくことで経文を唱えたことになるとチベット族の人たちに信じられている。



左上の反対方向を見ると中央に青龍橋が見える。

その向うの木があるあたりが四方街にあたる。両側の建物も地味になってきて、観光客相手の土産物屋が少なくなった。

路巾も狭くなり、建物も密集している。地元の人らしい通行人も多くなり、いかにも古鎮の雰囲気醸し出していた。

青龍橋から真っ直ぐに伸びた道は山の麓で左右に分かれる。下の街は山並みと青龍川の間に

細長く伸びた街になっていた。川沿いの道路に何本もの路地が山の麓に向けて上っている。



道路に疎水が流れているのは上と変わらないが狭くなっている。店構えも小さくなっている。土手沿いの道路を歩くとところどころにオープンカフェがある。

緑の木々に囲まれ、水の流れを見ながらの一杯は心地よい。都会からくる観光客むけに用意されたものだが、散歩の休憩には良い雰囲気を持っていた。



このあたりはまだ青龍橋の近くだが、さらに上流側に行くと住居が密集して狭い路地も多くなってくる。そして、露天で商いする姿や客棧が多くなり、

茶馬古道の宿場町として栄えた様相が見えてくる。

### 路地歩き

路地が実に多い。一つ一つ入ると、結構の距離を歩くことになる。しかも山の方に向かうので上ったり下りたり連続である。しかし、奥の方に行くと大きな屋敷があって入り口からはわからない発見があることがある。

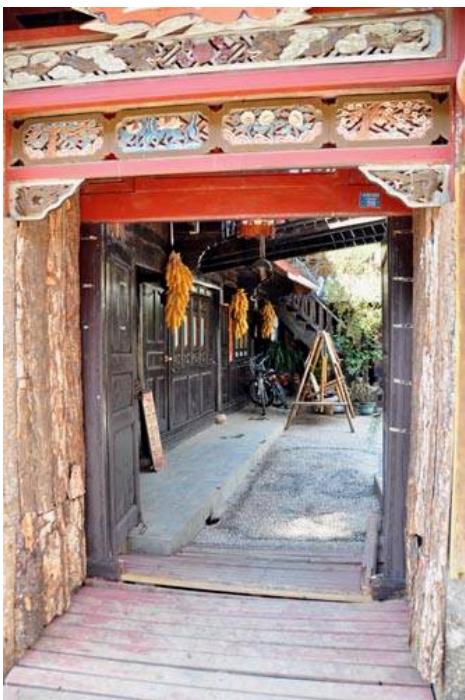
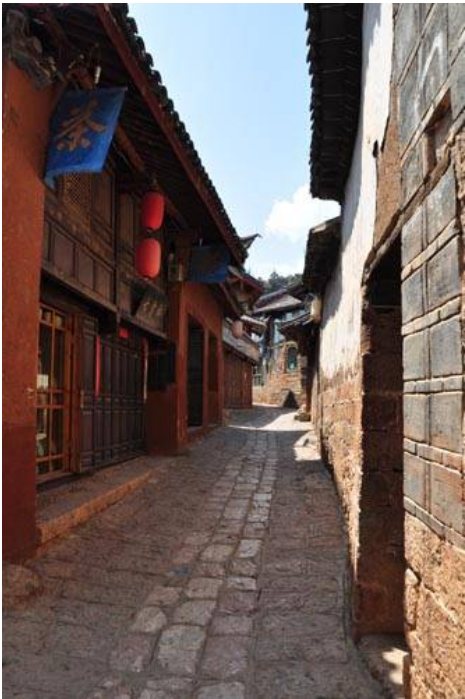
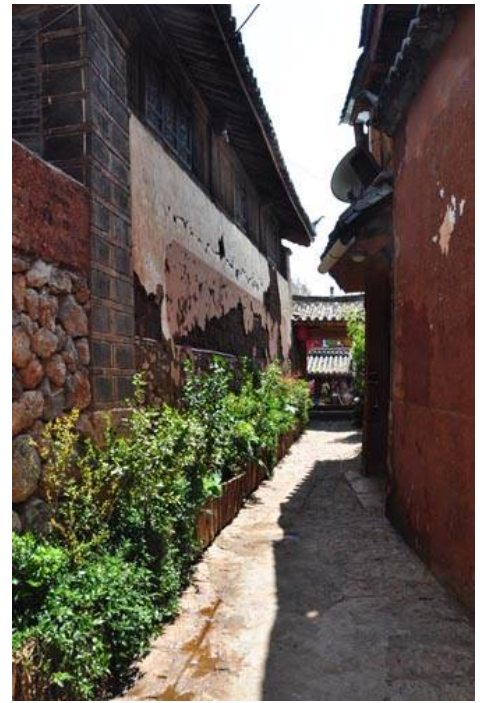
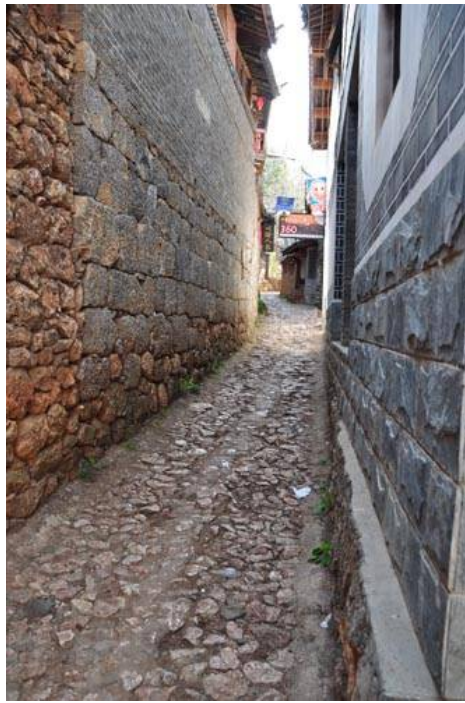
表通りに比べて石畳の路も整備されていないし、殆ど見掛けなかった電信柱もそこにはあ



った。

上の写真の店は看板を見ただけではわからない。左の写真の右の看板も漢字を見ただけではわからなかったが、脇にアルファベットで「ER MA INN」描かれている。それから判断すると「あなたの、お母さんの家」(尔媽家)となる。ここは宿の玄関である。旧家を改造して宿屋にしているようだ。後からつけたようなアルファベットは明らかに欧米人に向けてのもだろう。泊まってみたい所である。





このページの先の4枚が行きで後の2枚は帰りであるが、一度入り込むとこの先に何があるかと進んでしまう。

左の2枚は途中で見た門構えである。左は看板がないので、普通の住宅だろうが、見事な木彫の門構えだ。由緒ある家なのだろう。

右は英語入りの洒落た看板が掛けられていた。中の造りを見ると民宿か食堂らしい。

(路地歩きはまだ続きます)